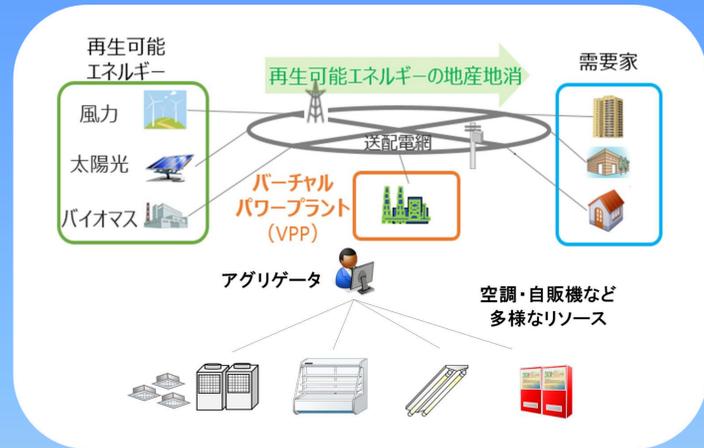


中部電力

共同研究

- ・名古屋大学 ・横浜国立大学
- ・富士電機株式会社
- ・株式会社トーエネック
- (中電CTI:業務委託)



VPP実証

(経済産業省 資源エネルギー庁補助事業)

様々なリソースを活用して 需給調整力を供出するデマンドレス ポンスを行います。

背景・目的

- 再生可能エネルギーの大量連系や需給逼迫に対応するため、系統安定化に必要な「系統電源で供給していた調整力」の一部を「お客さま設備の負荷制御」で代替することが求められています。
- 2021年4月に需給調整市場の開設が予定され、5段階の商品区分(応動時間等)に対応したADR(自動デマンドレスポンス)システムを構築する必要があります。
- 他のVPP実証で検討されているリソースに加え、新たなエネルギーリソースが求められています。

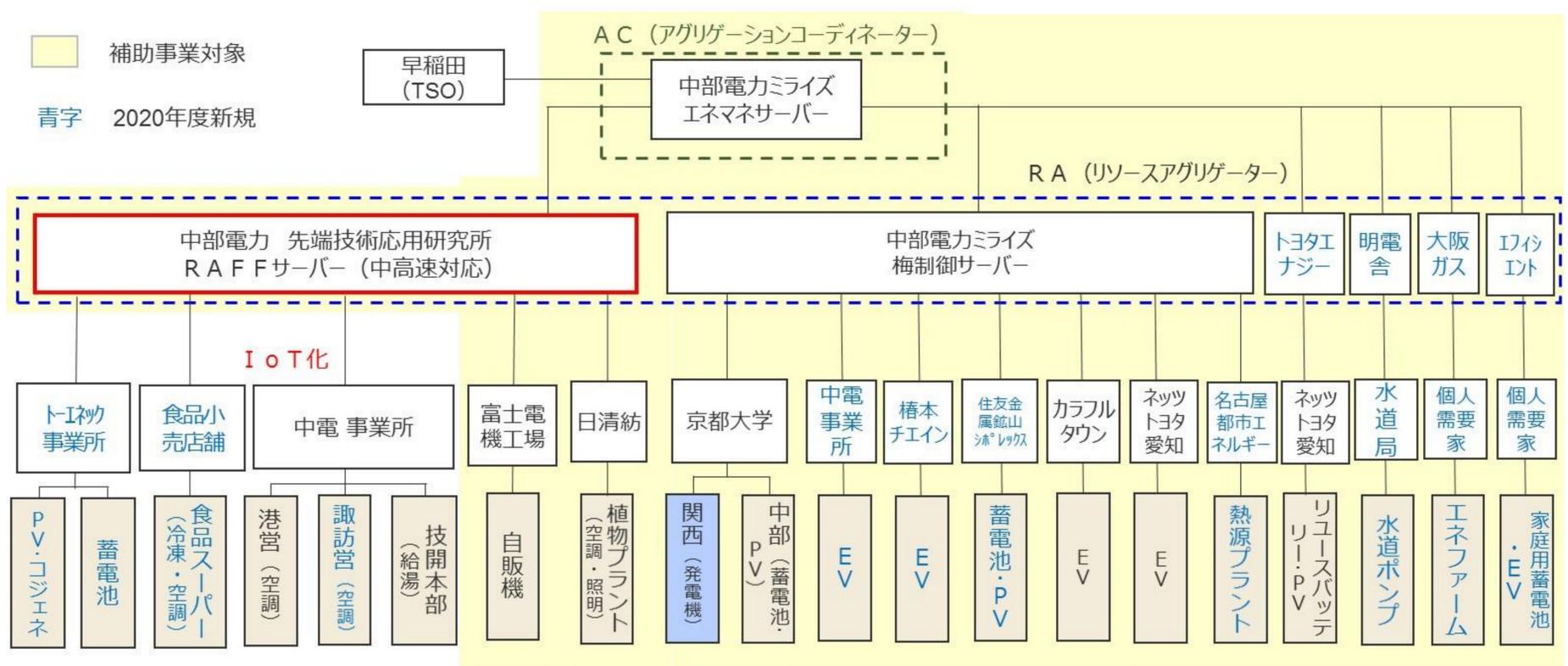
特長

- 新たなリソースの発掘とその需給調整力(調整量、反応時間、持続時間)を把握します。
- 需給調整市場で予定されている商品区分のうち三次調整力①②、二次調整力②について実証を行います。特に応動時間の比較的早い二次調整力②にチャレンジします。
- 生活に身近な事務所の空調や食品小売店舗の冷凍冷蔵ショーケースなどの可能性を検証します。

用途

- 電力の需給バランス調整(安定供給)に活用
- 将来のアグリゲーションビジネスへの活用

実証体制図



開発者の ひとこと

今回の実証で新たなリソースのDRポテンシャルを把握していきます。また、今回は応動時間5分や15分という比較的早い商品区分へのチャレンジングな実証試験です。手探りなところが多いですが、電力安定供給に資する技術、および将来ビジネスにつながる技術を確認していきます。